

倉科祖霊社

迎え撃ちに遭い命を落とした者の魂を弔う神社

ここは、松本城主、小笠原貞慶の重臣、倉科七郎左衛門を祀る神社です。倉科七郎左衛門は、1586年に大坂からの帰路に30名の側近を引き連れて木曽地方を通りかかりました。倉科が属していた小笠原氏は、木曽氏と敵対関係にあり、この敵対関係のために、馬籠と妻籠の土豪らが町民を率いて倉科とその側近全員を虐殺しました。

倉科らの命を奪った土豪らは、良心の呵責を感じると同時に祟りを恐れ、倉科の魂を鎮めるためにこの神社を創建しました。(伝説では、1749年にこの近くの下り谷番屋を流した洪水は、倉科の祟りによるものだったと言われています。) この神社は、当初この衝突が実際に起こった山の上の場所の近くに建てられましたが、より行きやすいこの場所へと移築されました。また、この近くには参拝者が集まり、酒盛りをすることができる簡素な集会所があります。